

広 行 監 第 2 号  
令和元年8月8日

湖北広域行政事務センター  
管理者 若林 正道 様

湖北広域行政事務センター  
監査委員 北川 隆夫  
監査委員 柴田 光男

平成30年度湖北広域行政事務センター一般会計歳入歳出決算  
および基金運用状況審査意見書の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項および第241条第5項の規定に基づき審査に付された平成30年度湖北広域行政事務センター一般会計歳入歳出決算および基金運用状況について審査を終了したので、その意見書を次のとおり提出します。

平成30年度湖北広域行政事務センター  
一般会計歳入歳出決算および基金運用状況審査意見書

1. 審査の対象 平成30年度の湖北広域行政事務センター一般会計歳入歳出決算および基金運用状況
2. 審査の期間 令和元年7月9日から同年7月10日
3. 審査の方法 平成30年度湖北広域行政事務センター一般会計歳入歳出決算書および同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、関係帳簿、証憑書類等と照合を行い、計数の正確性、予算の執行状況の適否について審査を行いました。
4. 審査の結果 審査に付された平成30年度湖北広域行政事務センター一般会計歳入歳出決算書および同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成され、関係帳簿証憑書類等と照合のうえ、さらに内容について検討審査した結果、決算は正確であると認められました。  
決算の概要および所見は次のとおりです。

(1) 総括

平成30年度における一般会計の予算総額は26億9,505万4,000円です。これに対する決算総額は、歳入は28億3,867万5,487円、歳出は24億2,255万917円、歳入歳出差引総額は4億1,612万4,570円、実質収支額は2億8,112万4,570円となっています。

平成29年度の実質収支額が2億6,217万9,482円であったことから、単年度収支は1,894万5,088円のプラスとなっています。

(2) 歳入

収入済総額の予算額に対する比率は105.33%となっています。調定額に対する収納比率については、99.85%となっており、使用料および手数料と諸収入(資源ごみ売却)とを合わせ、420万6,000円の収入未済額がありました。

収入総額に対する割合(構成比)については、市負担金が65.81%、使用料及び手数料が16.07%、国庫支出金が0.28%、財産収入が0.06%、繰入金が6.07%、繰越金が9.24%、諸収入が2.47%となっており、市負担金が収入の約6割を占める結果となっています。

### (3) 歳出

予算額に対する執行率は89.89%となり、支出済総額は前年度比85.34%となっています。これは、新施設整備事業に伴う用地取得完了等に伴い、衛生費の支出が前年度比3億8,518万4,898円の減となったことが大きな要因であります。

歳出総額に対する割合(構成比)は、議会費が0.06%、総務費が4.10%、衛生費が94.78%、公債費が1.06%となっており、歳出全体において衛生費が多くの割合を占める結果となっています。

### (4) むすび

本年6月に内閣府が発表した月例経済報告によると、「景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。」とされ、先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されています。

しかしながら、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意すべき点も多く、また構成市である両市の財政面も厳しい中で引き続き良質な住民サービスの提供と効果的・効率的な施設運営を行っていくことが求められています。

今回、平成30年度一般会計歳入歳出の決算審査を行ったところ、総体として健全な管理運営がなされていると認められます。

センターでは平成30年度、新斎場整備運営事業の入札公告を行い、選定委員会による選定の結果、事業者の決定がなされたと報告を受けました。現在は、新斎場建設に向けて事業者と協議を進めるとともに、新一般廃棄物処理施設整備に向けた計画策定、事業方式検討及び施設基本設計等に取り組んでおられるとのことですので、当初の計画年度どおりに事業が進められるように引き続き取り組んでいただきたいと思います。

また、新施設への移転を控え、現施設の維持管理については、残りの稼働期間を見据え、投資を極力抑えつつ、年次整備計画をもとに修繕箇所の見極めを行うなど、現在の業務の停滞が起こらないように万全を期していただきたいと思います。人員計画についても、将来の動向を踏まえて、センターの組織体制を検討し、新施設の円滑な稼働に向けた体制づくりをお願いします。

次に決算に関してですが、歳入は新たな未収金の発生もなく、徐々にではありますが回収を進めていただいておりますので、今後も継続して未収金ゼロに向けた取り組みをお願いします。

一方で、歳出について、施設の特性上、機械設備は市場価格が読みにくい点がありますが、類似自治体の情報収集と適正な予算確保に努めながら、不用額の削減に

向け、引き続き取り組んでいただくようお願いいたします。

また、平成30年度は、ごみ指定袋の強度不足の問題がありました。事態は収束したと報告を受けましたが、市民生活に直結することを再認識され、今後同様の影響が出ないように、適正な検品体制の構築をお願いいたします。

最後に事故についてですが、小さな車両事故が目立ちます。幸い大きな事故には至っておりませんが、再度、安全教育の徹底を図りながら、基本に立ち返って注意喚起をお願いします。各人が注意すれば防げるものもあると思いますので、安全第一での業務遂行をお願いします。また、自然災害は必ず起こることを念頭に持ち、施設周辺環境の整備を日常的に行い、事故を未然に防止する取り組みをお願いします。

今後は、現施設の稼働と並行して新施設建設に向け着々と事業を進めていかれることと思います。センターとしては、この一大事業が地域の活性化につながるようなアイデアを今後も出していかれるとともに、新施設稼働後の現施設の取扱いについても、なるべく早期に方向性を定め、地元自治会への説明責任を果たされ、スムーズに新施設への移行がなされることを強く期待します。